

ヴェネツィアにおける大型客船反対運動の研究

神戸大学 大川内晋

1. 目的

本報告の目的は、イタリアの都市ヴェネツィアで起きている大型客船反対運動に注目し、その様態を解明することである。近年のヴェネツィアは、経済的に観光産業に大きく依存する一方で、その観光のあり方が問われている。その一つの例として、大型客船による観光のあり方が挙げられる。ヴェネツィアに停泊する大型客船の乗客の数は増加傾向にあるが、この大型客船は様々な理由によって問題視されてきた。本報告はその異議申し立ての多様性と多様なアクターに焦点を当てる。

2. 方法

2014年1月から2015年1月にかけてと、2015年3月、及び2016年9月から10月にかけて、ヴェネツィアで大型客船の問題にかかわるアクターにたいしてインタビュー調査を行った。そのインタビュー調査によって得られたデータの分析をもとに、アクターの種類や異議申し立ての理由を分類し、大型客船反対運動の構造を明らかにする。

3. 結果

インタビュー調査を分析した結果、大型客船反対運動は多様なアクターによる、多様な異議申し立てが集合して形成されていることが明らかになった。例えば、大型客船はヴェネツィアの自然環境に悪影響を及ぼすと考えられている。大型客船が運河を通航することにより、ラグーン（潟）の繊細な生態系のバランスを崩すことや、大型客船が排出するガスによる空気汚染などが、研究者や行政、文化財保全・環境保護団体らによって指摘されている。しかし、それと同時に大型客船の引き波が生じさせる振動はヴェネツィアの建造物に悪影響を及ぼすとも考えられているのである。また、別の角度から問題の構造について検討する上でひとつの論点となる問題の規模において、グローバルな観光産業に対するローカルな地元住民による抵抗という理解は問題全体の一側面を照らしているにすぎない。何故ならば様々なレベルでアクターが関わっていることが明らかになっているからである。例えば、他国からの観光客でありながらもこの運動に参加しているケースもある。

4. 結論

以上から、現時点で明らかになっている知見としては、ヴェネツィアの大型客船反対運動のイシューを自然環境保護運動として理解するだけでは、運動全体の構造を把握することはおよそできないだろう。それは自然にとどまらずに文化、社会、政治経済と多岐に渡る領域によって構成されており、そして、様々なレベルのアクターが運動に参加して問題は形成されている。